

都市再生整備計画 事後評価シート
丸子山周辺地区

平成30年 3月

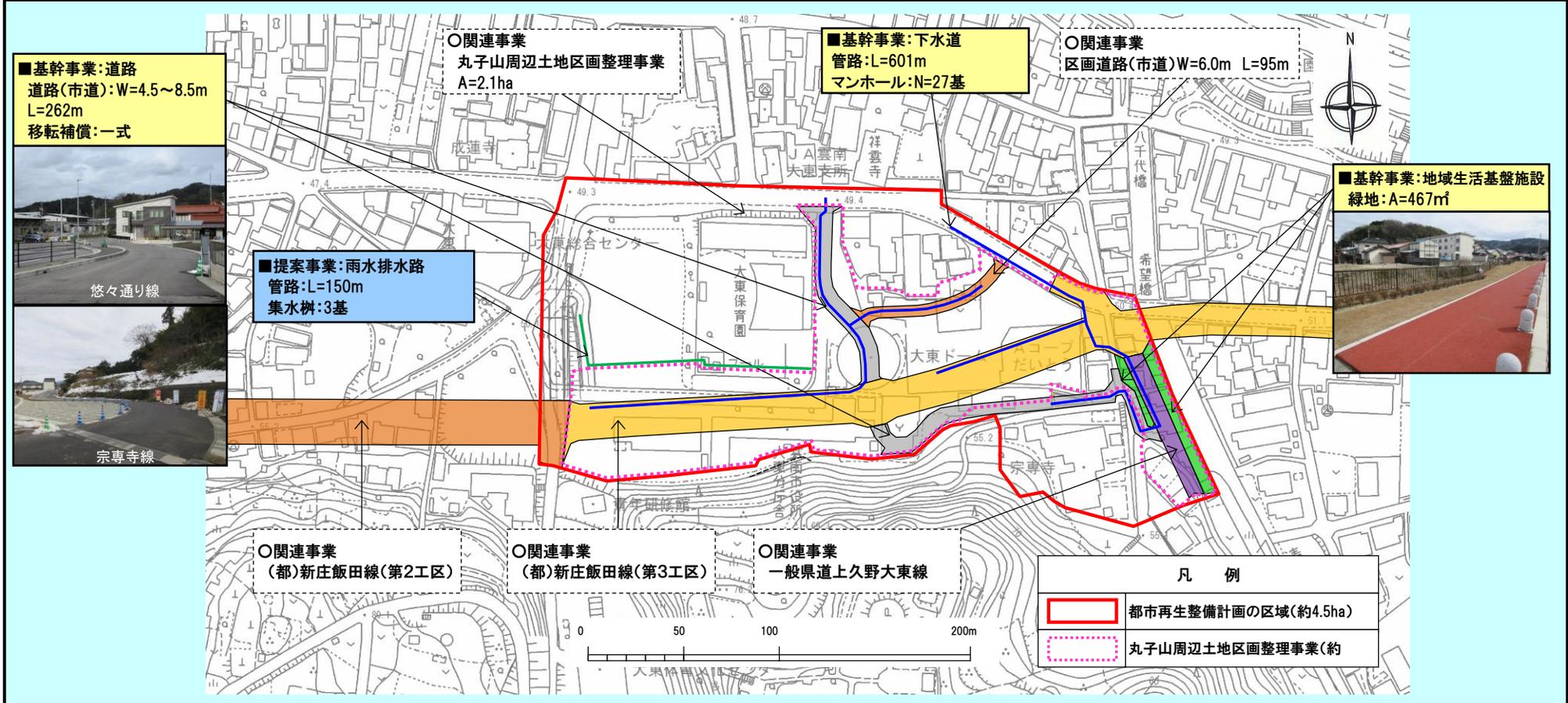
島根県 雲南市

様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 島根県 | 市町村名 | 雲南市 | 地区名 | 丸子山周辺地区 | | | 面積 | 4.5ha | | | |
|--------------------------------------|--|----------------------------------|---|---|----------|-----|-----|------------------------|------------|-------------------|--|----------|
| 交付期間 | 平成25年度～平成29年度 | 事後評価実施時期 | 平成29年度 | 交付対象事業費 | 121.0百万円 | 国費率 | 0.4 | | | | | |
| 1)事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | | 事業名 | | | | | | | | | |
| | 基幹事業 | | (仮)市道悠々通り線、(仮)市道宗専寺線、下水道(管路、マンホール)、地域生活基盤施設(緑地) | | | | | | | | | |
| | 提案事業 | | 雨水排水路(管路、集水樹)、事業効果分析 | | | | | | | | | |
| | | | 事業名 | | 削除/追加の理由 | | | 削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | | 基幹事業 | | なし | | | | | | | |
| | | | 提案事業 | | なし | | | | | | | |
| 新たに追加した事業 | | 基幹事業 | | なし | | | | | | | | |
| | | 提案事業 | | なし | | | | | | | | |
| 交付期間の変更 | | 当初 | 平成25年度～平成29年度 | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | | | | | | | |
| | | 変更 | 平成 年度～平成 年度 | | | | | | | | | |
| 2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 | |
| | 指標1 | 道路改善率 | % | 73.0 | H24 90 | H29 | - | 94.3 | ○ | あり ● なし | 道路の整備により、道路幅員の拡大や歩道が確保され、道路改善率が増加し、地区内の移動の安全性、利便性が向上した。また、大東地域から松江市までのアクセス網が整備されることにより、通勤時間帯に発生する慢性的な渋滞の緩和が期待される。 | 平成30年11月 |
| | 指標2 | 公共下水道の整備率 | % | 23.0 | H24 100 | H29 | - | 100 | ○ | あり ● なし | 下水道整備により、地区を随うのに必要な延長が確保され、市街地環境の安全性・快適性が向上した。 | - |
| | 指標3 | 老朽建物立地区画率 | % | 60.7 | H24 18 | H29 | - | 12.5 | ○ | あり ● なし | 区画が整理され、老朽化した建物の立地区画率が低下し、より安全な市街地環境が形成された。 | 平成30年11月 |
| | 指標4 | 生活環境満足度 | % | 30.3 | H24 50 | H29 | - | 45.2 | △ | あり ● なし | 道路や下水道等の生活基盤の整備により、地区内住民及び保育園関係者・利用者の生活環境満足度は、従前値と比較し増加したが、関連事業の遅れに伴い、一部事業が完了しておらず、全ての事業の効果が発揮できなかったため、目標値の達成には至らなかった。 | 平成31年1月 |
| 3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | 数値 | | 目標達成度※1 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 | |
| | その他の数値指標1 | | | | | | | | | | | |
| | その他の数値指標2 | | | | | | | | | | | |
| | その他の数値指標3 | | | | | | | | | | | |
| 4)定性的な効果発現状況 | <ul style="list-style-type: none"> 道路幅員の拡大や歩道の整備により、避難経路が確保され、自動車利用者だけでなく、歩行者や自転車利用者にとっても安全で快適な交通環境が整備された。 事業は一部完了していないものの下水道や雨水路、道路等の生活基盤の整備の推進により、良好な市街地環境が形成され、区域内の新築戸数が増加している。 事業の推進により、地区内・地区周辺住民のまちづくりへの関心や理解が深めることができた。 新しく整備する区画に対して、開発意向のある企業や個人から問い合わせもある。 | | | | | | | | | | | |
| 5)実施過程の評価 | 実施内容 | | | 実施状況 | | | | | | 今後の対応方針等 | | |
| | モニタリング | - | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | | | |
| | 住民参加プロセス | (主)松江木次線バイパス大東地区整備促進期成同盟会が実施する総会 | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ● 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | 住民と協働での維持管理を実施する。 | | |
| | 持続的なまちづくり体制の構築 | (主)松江木次線バイパス大東地区整備促進期成同盟会が実施する総会 | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ● 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | 住民と協働での維持管理を実施する。 | | |

様式2-2 地区の概要

| 丸子山周辺地区 都市再生整備計画事業の成果概要 | | | | | | | | | |
|--|--|------------|-------|------|-----|-----|-----|------|-----|
| まちづくりの目標 | | 目標を定量化する指標 | | 従前値 | | 目標値 | | 評価値 | |
| 安心・快適で魅力的な居住・商業市街地環境を整備し、大東地域の定住人口の増加促進、中心市街地の活性化を図る。 目標1: 道路、宅地、下水道、緑地等の生活・都市基盤施設の充実を図り、安全で便利な市街地環境を整備する。 目標2: 中心市街地として、住宅や定住促進のための施設立地を促進する。 | | 道路改善率 | 単位: % | 73.0 | H24 | 90 | H29 | 94.3 | H29 |
| | | 公共下水道の整備率 | 単位: % | 23.0 | H24 | 100 | H29 | 100 | H29 |
| | | 老朽建物立地区画率 | 単位: % | 60.7 | H24 | 18 | H29 | 12.5 | H29 |
| | | 生活環境満足度 | 単位: % | 30.3 | H24 | 50 | H29 | 45.2 | H29 |



| | |
|---------------------|---|
| まちの課題の変化 | 安心・快適で魅力的な住環境・商業環境の形成のため、整備された生活・都市基盤施設の適切な維持管理・活用が必要である。 さらなる居住促進や商業施設の立地に向けた情報発信や支援などが必要である。 庁舎移転が決定している大東総合センターの跡地と悠々広場の一体的な活用が必要である。 |
| 今後のまちづくりの方策(改善策を含む) | 地域住民と協働で生活・都市基盤施設の適切な維持管理・活用を実施する。 生活・都市基盤施設が整備され、安心・快適な住環境・商業環境が形成された地区であることをパンフレットなどで市内外へ周知し、居住や商業施設の立地を推進する。 地区周辺も含めた今後のまちづくりを見据え、悠々広場と大東総合センター跡地(解体予定)の一体的な活用を図る。 |